

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0175000835, 特定非営利活動法人 すばる, グループホーム すみれ, 北海道北見市留辺蘂町花丘22番地31, 令和元年12月27日, 令和2年2月3日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kani=true&JigvosvoCd=0175000835-00&Ser

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 有限会社 NAVIRE, 北海道北見市とん田東町453-3, 令和2年1月20日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中に囲まれた平屋の木造作りで、温泉街の近くに位置しています。近場では「山の水族館」への見学や、北見の「菊祭り」へ参加など楽しんでいます。入居者さんの要望によりご家族様に会いに行く支援も行ってあります。日常生活では入居者の方とスタッフが支えあい生活しておりますので、掃除や洗濯は参加できる用入居者の皆さんと一緒に... (text continues)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすみれは、山あいの自然に囲まれた静かな環境に立地する平屋建て1ユニットになっています。室内は台所を中心に明るく開放感のある造りで、リビングにはソファ等が使いやすい配置されており、暖かな雰囲気の中で利用者同士がともに生活しています。職員は開設時からの理念「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」を共有し、利用者本位の介護を目指し取り組んでいます。家族からの信頼も厚く、職員は何でも言い合える関係を築いており、事業所行事には多くの家族の参加を得て職員や家族同士の交流の場となり利用者との楽しい時間が生まれています。又、ホーム便りやインターネットのブログを活用しながら家族や地域へ発信し、事業所の周知・理解を深められるよう取り組みを重ねています。管理者は継続して地元高校生の実習受け入れや自ら学校へ出向き講師を務め、次世代を担う子供達の育成に力を注いでいます。更に、ホーム長とともにアセッサ資格を取得し、職員の資質向上の推進や事例発表の場では多職種(医師・看護師・言語聴覚士・作業療法士等)のアドバイスを受け利用者のケア改善に努めています。職員の働きやすい職場環境の整備に努め、調理・夜勤専任職員を配置し、柔軟な職員体制で利用者が自分らしくいられるようにと、今年度、日々の記録の書式変更により利用者の状態がわかりやすく工夫されており、介護計画の見直しに活かされています。管理者は常により良い介護を追求することで職員だけではなく自らも介護技術や指導力を高められるよう日々研鑽し取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有についてホーム内に掲示し、会議等で理念を共有している。	開設時からの法人共通の理念を玄関等の目の付くところに掲示し、会議の中で理念に沿っているかを確認しながら、利用者本位の介護を目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへの「買い物」や「菊祭り」等のイベントに参加したり、地域の方を交えての避難訓練等を実施し、交流を行っている。	町内会に加入し相互の行事を通じて交流を図り協力関係を築いています。人材育成の貢献として実習生の受け入れや地域に向けてサポーター養成講座を開催し、認知症ケアの啓発に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の受け入れ実習や「認知症サポーター」研修の実施やブログなどを積極的に行い地域に向けて認知症の理解や現状について地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の年6回までの開催までは達成していないが、会議等では十分にホーム等の取り組みやサービスについての話し合いが出来る。	地域包括支援センター職員・行政職員・地域住民代表の参加を得て事業所の状況説明・ヒヤリハット報告・避難訓練等を議題として話し合いが行われ意見要望を運営に反映させています。議事録は全家族に郵送し職員は閲覧にて情報共有に努めています。今年度は6回の開催を目指し取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。ホームページのブログで日々の暮らしの様子を掲載している。	行政職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、定期的に意見交換を行い協力関係を築いています。又、運営等については助言を得てサービス向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会の設置とマニュアル等成し、玄関の日中施錠はせず、不安定な入居者の方に対しては、環境を整えるなど、年数回会議を開催し話し合いを行っている。	リスクマネジメント委員会を設置し身体拘束廃止に関する指針やマニュアルを整備し定期的に話し合いの場を設けています。又、内部研修を通じて職員間で共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。日中、玄関の施錠はせず利用者の尊厳を大切にケアを実践しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、言葉の虐待や、身体的虐待、等を全員が理解出来る様再度会議等で周知出来る様努めている。変色等ある時はヒアリーハット等に記載し、会議で話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての話し合いは行い、ここの必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の結末は入居時と、その都度変更になった場合は、文章と説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会(運営推進委員会の参加)を設け、それらを運営に反映させている。	家族とは来訪時や家族参加の行事等を大切な機会と捉え、利用者の様子を伝え何でも言い合える関係を築いています。ホーム便りやブログを活用して事業所の取り組み状況を発信し理解に繋げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、職員の意見を反映できている。	管理者は日常会話の中で職員の意見を捉え毎月の会議の場で話し合いながら、意見・提案を運営や介護に活かしています。職員が日常的に学ぶことを推進しており、アセッサー制度を導入することで職員の資質向上を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限りの範囲で職場環境・条件等の整備に努め、キャリアアップ制度の改正をしアセッサー制度を取り入れている。給与水準が明確に分かるよう表に示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加に力を入れており、全員外部研修に参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者の交流や勉強会は「外部研修」でのみおこなっており、これから他の施設等の交流も進めてゆきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には様子をお伝えし、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物、台所の片づけなど共に共同して行い入居者の方の助け合いも見守りしながら、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、日々の様子をご家族へお伝えし、関係作りに努めている。(職員全員が説明出来るよう努めている)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも気軽にホームに来ていただける様な雰囲気作りに努めている。	家族の協力を得て自宅や温泉等、馴染みの場所への外出支援を行っています。又、趣味のぬり絵が楽しみとして継続できるよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の関係がより良好に生活出来る様、利用者の方同士自然と出来ない事に対してお互い助け合う姿勢を大切にし、見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればフォロー出来る様、経過を管理側でフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らしの希望に沿って自立した生活が出るよう様々な角度から支援できるように努めている。	日々の関わりの中での会話や表情などから希望や要望を把握し、本人の視点に立って検討しながら思いに添えられるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活等は、情報にまとめて、把握出来る様に努めている。都度新しい情報は付け加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態やできる事の可能性を常に把握し、記録などに残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。毎月会議等での話し合いも行っている。	利用者・家族・関係者の意向を取り入れ、担当職員のモニタリングや管理者・ホーム長・職員によるサービス担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成しています。定期的な見直しの他、利用者の状態変化に応じてその都度見直しを行っています。書式の工夫で情報がわかりやすい記録になっており実践や介護計画の見直しに繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や気づきを記入し、ケアプランに沿って介護が行えているか、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に応じて、都度ミーティング等開きサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食や、買い物等で本人が、力を発揮しながら安全で豊かな暮らしが出来る様支援しているが、限られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方には、馴染みの病院にかかれるよう出来るだけ希望に沿った支援をしている。状態に応じて往診も受ける体制も出来ている。	利用者のかかりつけ医への受信は希望を叶えるよう努めています。月2回の往診や訪問看護により利用者の健康管理が行われ安心して過ごせるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けており、その都度健康管理や、変化について相談し助言や協力体制を作る事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、利用者の情報提供書で状態を伝え、安心して早期退院出来る様関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行っており、重度化や終末期に向けて家族、本人、主治医と話し合いチームでケアを行っている。	重度化及び看取りについては指針、ターミナルケア(終末身における看取り介護)指針により説明し同意を得ています。利用者、家族の意向や想いを尊重し主治医、看護師、職員等と協働しその人らしく尊厳を保ち誠意をもって看取り介護に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度ミーティングでの話し合いとマニュアルを作成しているが、救命救急などの定期的な訓練はマニュアルで作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されており、火災避難訓練等にも参加して頂いている。	9月に昼夜想定で避難訓練、消火訓練を実施し3月に2回目を予定しています。ランタンや水、宇宙食などを備蓄しあらゆる災害時に備え準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを確保し、言葉かけや対応をしている。	利用者の人格の尊重し、利用者一人ひとりの状態に合わせ、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めています。カーテンを利用し羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか希望を必ず聞いて自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全員は難しいが、その日をどのように過ごしたいか、促しかけて希望に沿うよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、髪型や服装には気をつけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に片付けや、食事を共に行っており、好みに応じて食事内容を変更するなど楽しく食事が出来る様工夫をしている。	利用者の栄養を考え職員が献立を作成し、調理専門職員が調理を行っています。誕生日には利用者の好みの物を提供したり、レストランでの食事や回転寿司、クリスマス会のバイキングなど食事が楽しくなるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などは温度板で把握しており、状態に応じてお粥や、食事形態を変えるなど柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しており、誤嚥や口腔内のトラブルがないように努めている。口腔ケアも出来るだけ自立して出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録してパターンや様子、サインを把握して温度版で情報共有し、その人に合った方法で、時間間隔等を考慮しながら支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、全員の排便状態の確認をし運動、医師、ご家族と相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、自立して入浴できる方は少なく、午後からの入浴介助で行っている。週2回以上は入浴出来る様工夫している。	利用者の希望や体調に配慮し、週2回以上の入浴を支援しています。出来ることは自分で行ってもらい、見守りながらサポートに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠状態を温度板で把握し、対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を別途用意しており、何時でも確認出来るようになっている。服薬のマニュアルも用意している。事故が発生した時は早急に対策し、再発防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事や誕生日会など、特に食事を楽しみにしている方が多く、少しの時間でも「楽しかった」と思えるように食事メニュー等の工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等では、出来るだけ全員参加できるよう努めている。外泊希望されている入居者やご家族には出来るだけ協力し自宅で過ごせる時間を作れるよう支援している。	年間行事となっている水族館・焼肉バイキング・菊まつり見学などは家族と一緒に過ごす機会を多く作り、時間を共有して頂くための外出に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族には、入居者の方の自己管理で、紛失しても良い金額で了解を頂き自室でお預かりしている。買い物へ行ける入居者の方は見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じて、電話やお手紙のやり取りが出来るよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が無いように壁紙や光に気を使い、心地よく過ごせるよう努めている。	共有の空間にはソファやテレビなどが配置され、利用者がゆったり過ごせるよう配慮しています。また、温度・湿度に配慮がなされ、利用者と職員と一緒におしゃべりをしたりと和気あいあいと過ごせるよう家庭的な雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせるよう、入居者の方の関係性に配慮しながら、ソファの席へご案内をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごせるよう、ベッドと福祉用具以外は今まで使用していた物を用意して頂いている。思い出の写真等も飾っている。	居室には収納スペースが備え付けられ、テレビや家族写真等を飾り自分らしく暮らせるよう配慮しています。タオルを干すなど湿度に気を配りながら快適に過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、出来るだけ自立した生活を送れるよう季節の飾りや、行事の写真等飾るなど工夫し、手すりや、必要に応じて福祉用具を使用している。		